米ソ首脳会談の地——マルタ共和国について

瀬戸健一郎

聖パウロを救ったマルタ島で——

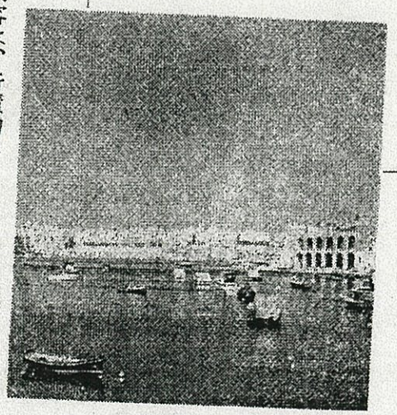
こうして救われてから、私たちは、ここがマルタと呼ばれる島であることを知った。これは新約聖書の使徒の働きを記した「使徒行伝」第二八章冒頭の記述である。

キリスト教を今日のような世界的大宗教に成長させる基盤を造った人物—聖パウロは、最後の訪問地ローマに向かう途中、嵐のため地中海上で難破した。ところが、パウロをはじめ、難波した船の全ての乗員・乗客は、奇蹟的にある島にたどり着き、船は完全に失なわれたものの、島の人々の温かい歓迎と協力で、三カ月後にローマ入りを果たすことができた。それがマルタ島である。

十二月にこのマルタの沖合洋上で米ソ首脳会談が行われる。ソ連外務省情報局長ゲラシモフ氏は「冷戦は地中海の海底に沈められるだろう」と述べたが、冷戦（船）という名の東西対立の構造の船を沈め、人類という全ての乗組員がこのマルタ沖で再び救われることを願いたいものだ。

「米ソ首脳会談十二月にわが国で開催」とのビッグ・ニュースが報じられたのは、今回私が日本からの親善使節団の一員として、マルタを訪れて三日目、十一月二日（木）の朝のことだった。

地中海に浮かぶマルタ島は今年英国からの独立二十五周年を迎える、人口わずか三十四万人の共和国である。日本では、あまり知られていない小国ではあるが、その歴史的遺産、歴史的存在感はあまりにも大きい。

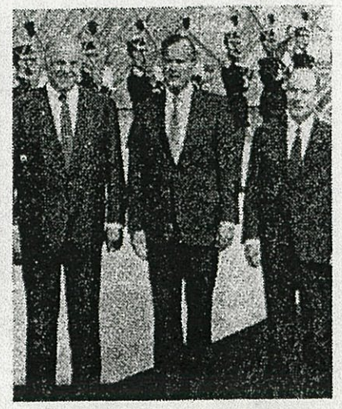


美しいマルタの海辺

前述のパウロ遭難—漂着の歴史にしても、現在のヨーロッパ社会のみならず、いわゆるキリスト教国と呼ばれる国々の価値基準、文化的背景の根幹を築いたキリスト教そのものが、もしマルタ沖でパウロが遭難死していた場合、現在のような存在には成り得なかったわけで、世界史も大きく変わっていたかもしれない。なぜなら、当時の世界宣教はローマの市民権を持っていたパウロにのみ許され、可能だった仕事だからである。

淡路島ぐらいの共和国の歴史は

全長二十七キロメートル、幅十四キロメートル、ほんの淡路島程度の大きさの、世界地図で見たのでは、ほんの芥子粒ほどの小さな島マルタは、それよりも半分の大きさのゴゾ島と極小さな他の三島を合わせて、れっきとした独立国を形成しており、切り出して積み重ねただけの素朴な



ゴルバチョフ書記長（上）と西側を代表するブッシュ大統領（右・中央）

石造りの街並みは、汚染という言葉さえ寄せ付けないほどに澄んだ美しい海と空に包まれていて、「地中海の真珠」と呼ばれるに相応しい別天地である。

しかし、このように静かで、平和な美しく小さな島には、想像を絶する数奇な運命と波瀾に満ちた歴史が刻まれている。

紀元前五〇〇〇年頃、新石器時代に、シシリーや東方から移ってきた農民達が最初のマルタの住人である。この農民達は巨石建造物を築いたが、これが英国のストーン・ヘンジの前身であったと今でも島の人々には信じられている。さらに、同じ農民達の手によって大規模な地下神殿（ハイポジウム）が建設され、鍾乳洞にも似た三十にも及ぶ人口の地下室、地下通路が現在も公開されている。この頃の歴史を指して島の人々は第一の文明と呼んでいる。

ところが、この第一文明期の最盛期にあたる紀元前一〇〇〇年を境に、これらマルタの原住民の足跡はぷつりと途絶えており、歴史は紀元前九世紀フェニキア人の侵略まで空白のままで、今だに大きな謎である。

その後、一五二二年に神聖ローマの皇帝カルロス二世がマルタを聖ヨハネ騎士団にさしあげわたしてから、彼らの努力によって大きな発展を遂げたが、この時代を指して第二の文明のエポックとして島の人々は考えていて、誇りにもしている。

マルタの人々にとって、紀元前九〇〇年頃フェニキア人の占領を受けてから、空白の歴史が開けて聖ヨハネ騎士団の本拠地としての新しい時代の幕開けを迎える紀元一五〇〇年頃までの約一六〇〇年間に及ぶ波瀾万丈の歴史は侵略と略奪の歴史であり、マルタ独自の文明期とは一線を画している。

しかし、数々の侵略者の手によって刻まれたマルタの歴史は断ち切れるものではない。最初の侵略者フェニキアはマルタを交易の基地としたし、地中海上における交易・戦略の拠点としてのマルタの重要性は、その後の侵略者達、ギリシア人・カルタゴ人・ローマ人・アラブ人・ノルマン人・カスティリャ人の手によって高められて来たのだ。また、紀元前二百年ころからマルタを統治下に置いていたローマは近代的なアーチ型の水道を今に残しているが、他にも様々な民族の遺産が島中に残っている。

ところで、マルタの人々は大変信心深い。パウロによってもたらされた信仰の種は、聖ヨハネ騎士団の本拠地となって、十字軍の負傷者と病人の看護、貧乏な人々に対する援助を主な任務として、キリストの戦士として大きく用いられた頃に芽を出し、このころ開発された部落は全て教会を中心に形成された。

第一次文明期には想像を絶する規模と構造の神殿を数々築き、第二次文明期には数多くのキリスト教会を築いたわけである。

その後約二百年の間、実に平穏な、平和な時代が続いたのだが、一七九八年にナポレオンに占領され、一八〇〇年に英国によってフランスの占領からは解き放たれたものの英国の統治下に置かれて、一九六四年の独立まで、再び不

37(1)(455), 1990.1

自由な歴史を歩んだ。

経済強化策を推め、EC加盟へ

さて、独立を宣言して今年で丁度二十五年。小さいながらも共和制を取り入れた民主的な政権を維持し続けたことは、偉大なる第三次文明期を飾らんとする意気込みに支えられている。

独立後七一年までは保守の国民党が政権党であったが、七一年に労働党政権となって、七九年には英国が協定の期限切れに伴いバレッタの海軍基地を撤収。八四年以降リビアとの間に軍事協定を含む友好条約を締結して東側よりの政策を進めたが、八七年の総選挙で僅か一議席差だが十六年ぶりに国民党が政権を奪回し保守政治が再開された。

保守政権が今推進しているのは、本格的な経済発展促進の政策であり、その主な構想は地中海の十字路とも言えるマルタの地理的特色を活用し、マルタ全体を国際化して船舶、金融、部品製造、交易のオフ・ショア・ベースにしようという計画である。

一方ではマルタの観光開発を一層推し進めて、日本人観光客の獲得にも意欲的に取り組んでいるところであるが、もう一方では経済発展促進のための構想実現のために、すでにマルタ政府は輸出指向型の外資企業誘致のための税制優遇措置や数々の補助金制度等も創設した。対外交通には、既にヨーロッパの主要都市から毎日ジェット旅客機の定期便が就航しており、ヨーロッパ最長級の滑走路を備えた空港には来年末までに新ターミナル・ビルが完成予定であり、水不足も大規模な海水の純水化プラントの建設により解消しつつある。

外交上は、ECへの加盟申請中で、すでにアソシエート・メンバーとしての地位を獲得しており、例えば日本企業がマルタで部品製造を行えば、それはEC製品とみなされて現地部品調達率を押し上げることになる。

大舞台の喜びと国づくりの活気が

このような基本政策の実施の上でマルタ政府は、ドイツ、イタリア、英国などに投資誘致の使節団を送り、日本にも今年四月と九月に使節団を送り込んで来た。

まさに自らの歩みと他国の占領を交互に繰り返して来た波瀾に満ちたマルタの人々が、第三の文明期を築き上げようと必死の努力をしていることはとても感動的である。淡路島程度の大きさの、たった三十四万人の国民が、いかに国際社会の中で小さな目立たない存在であるかは言うまでもない。しかし、なにか神憑り的な、祝福された神秘の島として、訪れるものに強いインパクトを与える場所だ。

そんな神秘の島マルタに、そして国際社会に最も今PRしたいマルタ共和国に、東西社会が激動し、冷戦が本当になくなるのではという期待が大きくなったこの「時」に、米ソ首脳会談がやって来る。

『米ソ首脳会談―わが国で開催』のニュースを現地で、親しくなったマルタの人々と共に喜ぶ機会に恵まれて、ますますマルタに魅了される思いを私は隠すことが出来ない。新約聖書の昔から、マルタの人々の温厚で親切で生真面目な国民性は変ることはない。日本で現在忘れさられた静かな闘志と活気を肌で感じて、何とか彼らの「国づくり」が成功するように祈りたい。彼らの目指すものは、米国や日本のような国づくりではなく、多くの遺産、恵まれた美しい環境を保護しながら、心のサービスを提供することによるホスピタリティー豊かな国づくりである。米ソ首脳会談の大舞台となるマルタ、マルタ共和国はその大舞台としてふさわしいところであり、是非多大な実りある首脳会談になるよう心から願いたい。

地球はJCBできる星です。

ちょっぴりの憧れと、たっぷりの食欲を持って、たとえばパリ。サントノーレ通りで、欲しかったあのバッグを思いきってJCBする。念願かなってホッとしたのも束の間、「あれもいいわね」、「これもステキ」ショーウィンドーが私を誘う。そして夜はというと、三ツ星シェフの腕前に大満足しつつも、「ああ、今日だけは胃ぶくろがもう少し大きければ」なんて。食事する、ホテルする、冒険する。あなたの住むこの星は、JCBと一緒なら楽勝です。

思い出をもっと大きくするために、海外での分割払いをご利用ください。
JCBカードは、海外で分割払いサービスが受けられます。
あこがれのブランド商品なども、計画的なご返済でさらにお求めやすく。

●ご利用金額／原則として3万円以上50万円以下（相当の現地通貨額）●返済回数／3回・6回・12回・18回・24回●返済方法／毎月元利均等返済●分割払い手数料／年12.60%（月利1.05%）

日本語でお応えするJCBデスクが、世界主要都市に。
ホテル、レストランの予約やショッピング案内など日本語の話せるスタッフがお待ちしています。

※JCBご入会または海外ショッピングサービスに関するお問い合わせはお近くのJCB各営業所までお電話ください。東京03(294)8111、大阪06(942)2221、福岡092(712)0401